

### Ⅲ PCB取扱い婦人の子供の健康状況の

#### 追跡調査—健康診断結果（第3報）

原 一 郎 平 田 衛（大阪府立公衛研）  
 美 濃 真 （大阪医大，小児科）  
 原 田 章 （関西労働衛生技術センター）  
 木 村 真 次 （新日本電気）  
 遠 藤 勉 （遠藤病院）  
 梅 田 玄 勝 （北九州市民公害研究所）  
 奥 村 英 彦 （長崎大学，医，口腔外科）  
 財 間 至 宏 （大阪大学，医，衛生）

1. はじめに：コンデンサー工場でPCBを取扱っていた婦人から生れた子供について，PCBの影響の有無を調べるための検診を，1975年から継続している。1978年までの報告はすでに行っているので，ここでは，1979年の検診結果の概要を報告する。

調査時期および受診見数は，表1の如くである。第2回以後，受診者数が年ごとに減少していたので，今回は，以前に受診したことのある者に，経過観察の必要なことを強調して呼びかけた結果，受診者数を相当に回復することができた。

表1 子供検診受診者数

回	検 診 時 期	世 帯	子供数(男.女)	年 令	受 診 回 数
					初, 2, 3, 4, 5
I.	1975.11.22.	21	39(21,18)	3月-12才	39,
II.	76.11. 7.	20	29(14,15)	3月-13才	9,20
III.	77.11.13.	12	22(10,12)	8月-10才	2, 6, 14
IV.	78.11. 5.	7	13( 5, 8)	2才-12才	0, 4, 1, 9
V.	79.11.11.	11	20( 8, 12)	3才-16才	1, 3, 6, 3, 7

2. 第5回こども検診結果（表2）

前回と同様の検診内容で実施した。受診児20名中，血中PCB濃度が10 ppb以上の高値（最高28 ppb）を示す子供が3人あったが，小児科学のおよび歯科学的診察によって，

PCB中毒と判断すべき異常者は見出されなかった。歯科学的検診において、前回同様に、う歯の多い者、エナメル質形成不全、歯肉のごく軽度の色素沈着などは認められたが、いずれも血中PCB濃度との関連は認められなかった。臨床検査においても、特別な異常は認められなかった。

3. むずび：以上の如く、第5回の検診でも、血中PCB濃度の高い子供は見出されたが、PCB中毒と判断される者はなかった。乳児期に認められた自覚症や軽度の変化も、成長が進むにつれ、ほとんど消えていっている。第1回以来、5年間の経過を個人別に、あるいは集団的に整理、検討する作業を実施中である。また、今後の経過観察の方法についての検討を行っている。

表2 第5回こども検診の結果(1979.11)

血中 PCB 濃度(ppb)	人 数	爪 変色沈 形色素着	皮膚 肉乾 燥	歯 色 素 沈 着	エ ナ メル 質 不 全	う 歯 ++
3未満	6	1	4	4	3	0
3-4	5	0	3	3	2	1
5-9	6	0	3	5	4	0
10以上	3	0	2	1	2	1
計	20	1	12	13	11	2

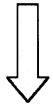
#### Ⅳ 児童の精神機能に対するPCBの影響

佐藤 俊子, 松本 和雄 (大阪府立公衆衛生研究所)

1968年夏、北九州を中心として発生したPCB中毒事件は、油症についての龐大な医学的知見を提供した。

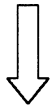
とりわけ小児の精神機能に関しても、いくつかの研究が報告された。山下は13例に精神運動発達の遅れを指摘したが、山口らの報告には1例も認められず、顕著な精神障害をおこすとは考えられていなかった。

しかし、原田らは4才から14才まで127名の児童について、6年間追跡した結果、多くの



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1.はじめに

コンデンサー工場でPCBを取扱っていた婦人から生れた子供について、PCBの影響の有無を調べるための検診を、1975年から継続している。1978年までの報告はすでに行っているの  
で、ここには、1979年の検診結果の概要を報告する。

調査時期および受診見数は、表1の如くである。第2回以後、受診者数が年ごとに減少して  
いたので、今回は、以前に受診したことのある者に、経過観察の必要なことを強調して呼び  
かけた結果、受診者数を相当に回復することができた。